

Ⅱ 研究開発実施内容

研究開発 1 課題研究 ― G L 探究 ―

1 目的と期待される効果

(1) 目的

日本の歴史・伝統・文化を踏まえて、グローバルな社会課題である国際間での文化や社会の対立を排除し、多文化共生社会の実現を図る課題研究を行うことを通して、グローバルな視野に立って探究し、課題を解決する資質、能力、態度を身に付ける。

また、課題研究の発表は、英語で行い、レポート等は英文表記でまとめることを通して、英語でのコミュニケーション力を向上させる。

(2) 期待される効果

課題研究の取組により、日本の歴史・伝統・文化を踏まえて多文化共生社会を構築するグローバル・リーダーとしての資質や能力が身に付くことが期待される。

2 内容

(1) 普通科 1～3 年次の「G L 探究」(総合的な学習の時間)においてグローバルな社会課題について課題研究を実施する。なお、G L とはグローバルラーニングの略である。

(2) 地歴公民科及び英語科を中核とするが、基本的には全職員がテーマごとにチームを作って適切な準備をして生徒の指導を行う。

(3) 課題研究の成果は、年度末に校内外の高校生、保護者及び近隣の小中学校を対象に発表会を行い、S G H の普及を図る。また、成果を研究収録として冊子にまとめ、県内の高校等や全国の S G H 校に配付し、S G H の成果の普及を図る。

3 実施方法

(1) 1 年次の「G L 探究」において、様々なテキストや資料、インターネット等で得られる情報等を用いて、グローバルな視点から歴史や地理、政治、経済等の基礎的な内容を学ぶ。基礎的な事柄及び得られた知識を整理するとともに、課題研究の手法も取得して、2 年次からの課題研究に備える。

(2) 2～3 年次の「G L 探究」では、「G L アクティブ」や 1 年次に得た知識や手法を基に、各自または各班で課題研究に取り組む。

(3) 千葉大学国際教養学部と連携を図り、課題研究の進め方やまとめ方の指導を受ける。この中で指導する教員対象のレクチャーも並行して実施する。

(4) 研究に必要な資料や情報の収集及び研究のアドバイス等は国立歴史博物館、国際協力機構(JICA)やDIRECTFORCEの協力を仰ぐ。

(5) 2 年次終了時に課題研究発表会を行い、研究成果を口頭やポスターで発表する。

4 検証評価方法

(1) S G H 運営指導協議会において、運営指導協議員による評価を行い、改善を図る。

(2) 年度末に生徒及び保護者へのアンケート調査を行い、年度ごとのグローバル意識の変容について調査、分析し、改善を図る。

- (3) 校内外での発表の件数や発表会における入賞の件数や生徒の進路希望の変化について検証する。

5 第1学年 課題研究 ― G L 探究 ―

(1) 第1学年計画

ア 計画概要

(ア) S G Hについて知り、今年度の到達目標を理解する。

- ① 全員が海外に自信をもって発信できる、日本の歴史、伝統、文化を語れるようにする。通史的なことではなく、自分が語れること。
- ② 研究したいグローバル社会における課題（日本を中心に考えてもよい）を見つける。（国際課題の解決に向けて、日本人に何ができるか、研究する。）
- ③ 英語のプレゼンができるようにする（プレゼンの手法も含めて）。
- ④ 課題研究の進め方を理解する。

- (イ) 課題研究の手法を知る。
- (ウ) 課題を見つける（個人）。
- (エ) 課題を持ち寄り協議の上、研究グループを編成する。
- (オ) 研究テーマを決定する。
- (カ) 先行事例・先行研究の調査を行う。
- (キ) 仮説を立て研究方法を決める。
- (ク) 中間発表（英語でポスター発表）

イ 昨年度との変更点（第1学年生徒について）

- (ア) 課題研究の進め方に係る具体的な指導について、昨年度は9月に本格的に開始したが、研究の見直し等があった場合、時間的余裕がなくなってしまうので、できるだけ早期にガイダンスを行い、夏季休業中前に課題研究の進め方について指導を行った。
- (イ) ガイダンスにおいて課題研究の方法については、昨年度は千葉大学の先生によるワークショップ等を実施したが、学校としての自立を考え、本校職員で実施した。
- (ウ) 課題の見つけ方、テーマの絞り方については、ビジネス課題を例に挙げ、日本政策金融公庫の方による講演を実施した。
- (エ) グローバルな課題を見つける上で社会の関係性を捉えさせるために、地域と世界との関係を中心とした講演、グローバル社会と日本の課題を中心とした講演を実施した。
- (オ) 課題研究のテーマについて、1分間スピーチを取り入れ、より自己の考えを明確化するとともに表現を意識させる機会を設けた。
- (カ) 課題研究の事前学習として、海外グローバル研修の報告会を実施した。
- (キ) 課題研究の事前学習として、理数科2年生によるSSH課題研究のポスター模擬発表を実施した。
- (ク) 大学教授の模擬講義に替えて、調査・分析方法に係る講演会を実施した。

(2) 第1学年実施内容

ア ガイダンス1「S G Hプログラム」

(ア) 日 時 平成29年4月11日（火）6限

- (イ) 場 所 本校体育館
- (ウ) 対 象 第1学年普通科
- (エ) 目 標 S G Hに係る教育活動について理解する。
- (オ) 内 容 本校S G H主任が、本校のS G Hに係る教育活動について、説明するとともに、課題研究の概要、1年次の到達目標について説明した。

イ ガイダンス2「佐倉を知る」

- (ア) 日 時 平成29年4月18日(火) 4限～7限
- (イ) 場 所 佐倉市内、国立歴史民俗博物館
- (ウ) 対 象 第1学年普通科
- (エ) 目 標 佐倉市の歴史保存の在り方や佐倉市内の様子を調査し、地域や地域に受け継がれてきた伝統・文化について関心を高めるとともに、地域における課題を見つける。加えて国立歴史民俗博物館の使用方法を学ぶ。
- (オ) 内 容 本校から、武家屋敷等を見学しながら国立歴史民俗博物館に向かい、博物館では使用方法や展示内容等について確認した。



ウ ガイダンス3「海外研修の報告を聞こう1」

- (ア) 日 時 平成29年4月25日(火) 6限
- (イ) 場 所 本校体育館
- (ウ) 対 象 1・2学年普通科
- (エ) 目 標 平成28年度末にイギリスで研修した生徒の成果を見聞することにより、グローバルな課題について知り、課題研究のテーマを考える一助とする。
- (オ) 内 容 イギリス研修に参加した生徒が、イギリスの高校生、ケンブリッジ大学の学生、オックスフォード大学の学生に向けて行った課題研究のプレゼンテーションを披露するとともに、フィールドワークや研修の内容について報告した。



エ 「課題研究を始めよう」

- (ア) 日 時 平成29年5月26日(火) 2, 3限
- (イ) 場 所 本校体育館
- (ウ) 講 師 正能 幹雄 氏(日本政策金融公庫)
- (エ) 対 象 1学年普通科
- (オ) 目 標 ビジネスプランを例として課題研究テーマについてのプランニング能力を高め、課題研究の一助とする。

(カ) 内 容 本校SGH主任が課題研究について説明を行った後、ワークショップを実施した。その後、日本政策金融公庫正能幹雄氏をお招きし、講義形式で、課題研究についての説明を受けた。


【SGH主任の説明資料】

課題テーマを考える


- 1 「これは知らなかった」「面白いな」というひらめきを発見として青ペンまたは黒ペンでノートに書こう。(黄色のふせん)
- 2 「これは○○にとって問題だ」「困っていること」など、改善や解決が必要とされる点を課題として赤ペンで書こう。(ピンクのふせん)
- 3 この時、キーワードや絵などで簡易的に要点を表すように
- 4 周りの友達にみせてみよう。
- 5 言葉の意味、定義、1、2として書いた理由をお互いに話してみよう。



課題テーマの絞り込み



課題テーマの絞り込み



- 1 どの要因や課題同士が関連しているのかを可視化する
- 2 「やりたい」「なんとかしたい」と思ったことは、どのあたりの課題や要因に絡んだものかをリンクしてみる
- 3 一つの課題にどのような要因やプレーヤー(困っている人)が絡んでいるか展開する

貧困問題に地域差があるのはなぜ？
(リサーチクエスション=課題テーマ、問いかけ)

- 1 歴史的な影響？だとすると、なぜ今日まで影響があるのか？
- 2 地域差はもっと小さな単位、例えば佐倉市内にも見られる？
- 3 地域差解消のための取り組みは？何が解決できていて、何ができていない？
- 4 自分たちならどんな解決案があるか

- 1 誰に向けて、何を発信・提案するのか。
- 2 やりたいことと、できることの見極めは大事。
- 3 ビジネステーマだけではなく、「平和」、「文化」など「やりたい」「何とかしたい」「改善したい」と思うテーマで考えて

オ 外部講師による講演「地域から世界をみる」

- (ア) 日 時 平成29年6月27日(火) 午後3時15分～午後4時5分
- (イ) 場 所 本校体育館
- (ウ) 対 象 本校1年普通科
- (エ) 目 的 地域と世界との関係について理解することにより、課題研究を進める上での一助とする。
- (オ) 講 師 愛沢 伸雄 先生(NPO 法人安房文化遺産フォーラム代表)
池田 恵美子 先生(NPO 法人安房文化遺産フォーラム副代表)
- (カ) 内 容 『「館山まるごと博物館」のまちづくり～足もとの地域から世界をみる～』を演題に、地域の歴史が世界の歴史とつながっていること、地域の平和を考えることが世界の平和に結びつくことなどを明らかにする内容であった。



(キ) アンケート結果

【GL 探究共通アンケート】(数値は回答数)

① 日本や地域の歴史・伝統・文化，社会課題をより深く理解する必要性を感じた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
78人	171人	24人	5人

② 外国の歴史・伝統・文化，社会課題に関する興味・関心が高まった。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
58人	171人	45人	1人

③ 今回の講演の事柄を，外国人に英語で話すことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
6人	29人	143人	97人

④ 今回の講演の事柄を，友人等と話し合うことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
21人	174人	75人	11人

⑤ 今回の講演に関連する課題研究テーマを考えることができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
16人	79人	149人	25人

⑥ 課題研究に関する新たな（異なる）視点を得ることができた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
13人	62人	191人	12人

⑦ この講演は，課題研究テーマを考えるのに役立った。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
10人	79人	176人	10人

【生徒感想】

- ・歴史を知ることによって今につながるののだなと感じた。
 - ・自分たちに身近な千葉県でも戦争というものが身近にあったものだ勉強になった。
 - ・身近なところから日本の歴史や世界の歴史についてまで考察できることを学んだ。
- 今後SGHの課題研究を行うにあたり，必要なことだと思った。

(ク) 成果と課題

地域と世界の関係，地域とグローバル社会の関係について興味・関心を抱かせる上では効果のあった内容であった。この段階で地域の歴史の観点から世界との関係を考えさせることは，グローバルな課題が身近にあることに気づかせる良い機会となった。1年次の到達目標の①②に有効であった。

カ「課題研究のテーマを見つけよう」

(ア) 日 時 平成29年6月28日(水) 5限

(イ) 場 所 本校体育館

(ウ) 対 象 1学年普通科

(エ) 目 標 ビジネスプラン等を例に研究テーマを見つける手法を身に付け，課題研究のテーマを見つける一助とする。

(オ) 内 容 課題研究のテーマを見つけるために，ブレインストーミングを実施した。

キ「夏季休業を活用しよう」

(ア) 日 時 平成29年7月7日(水) 3限

(イ) 場 所 本校体育館及び各教室

(ウ) 対 象 1学年普通科

(エ) 目 標 夏季休業中にできることを確認し，課題研究のテーマを見つける契機とする。

(オ) 内 容 ① 6月28日に説明したビジネスプラン等を例に，研究したいことに係るキーワード，ロジックツリー・グルーピングをワークシートに記入し，テーマを絞った。

② 夏季休業中の「GLアクティブ」について説明し，校外での経験を通して，課題研究テーマを見つけることを促す。

③ 夏季休業後，研究テーマを選んだ理由について，クラス全員の前で1分間発表し，その後，研究グループを構成することを予告した。

ク 外部講師による講演「グローバル人流論」

(ア) 日 時 平成29年7月12日(水) 午前10時40分～午前11時40分

(イ) 場 所 本校体育館

(ウ) 対 象 本校1年普通科

(エ) 目 的 グローバル社会とはどのような社会なのか，グローバル社会の課題とは何か等について，課題研究を見つける一助とする。

(オ) 講 師 津田 守先生(名古屋外国語大学教授・大阪大学名誉教授)

(カ) 内 容 『グローバル人流論』を演題に，人の流れがグローバルな社会を作りあげていくこと，災害時を例に挙げながら日本におけるグローバルな課題等を中心に，現代のグローバル社会の有り様について講演していただいた。



(キ) アンケート結果

【GL 探究共通アンケート】(数値は回答数)

① 日本や地域の歴史・伝統・文化，社会課題をより深く理解する必要性を感じた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
77人	167人	25人	8人

② 外国の歴史・伝統・文化，社会課題に関する興味・関心が高まった。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
81人	158人	30人	3人

③ 今回の講演の事柄を，外国人に英語で話すことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
9人	31人	142人	96人

④ 今回の講演の事柄を，友人等と話し合うことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
22人	167人	79人	13人

⑤ 今回の講演に関連する課題研究テーマを考えることができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
22人	90人	143人	14人

【生徒感想】

- ・いろいろなところに行き，実際に人と接し，見聞きすることは大切だなと思いました。
- ・人は「流れ」の中にある。その意味が今回の講演で少し理解できた気がする。
- ・世界中にはいろいろな文化や言語があるので，意思を伝えるのは容易ではないが，少しでも改善できる工夫を考える必要を感じた。

(ク) 成果と課題

昨年度は，11月に千葉大学の教授に「高校生に伝えたいグローバルな問題」という演題で講演を実施していただいた。しかし，生徒の研究課題テーマが概ね固まってきた時期であったので，もう少し早めに行う方が有効であると判断し，テーマを見つける前に専門的立場からのグローバル社会の有り様，課題等の総論的な講演を実施した。1年次の到達目標の①②に有効であった。講演の内容が研究テーマに係る具

体的な内容ではなかったため、課題研究についての生徒の肯定的回答は高まらなかった。

ケ「1 分間スピーチを通して研究グループをつくろう」

- (ア) 日 時 平成29年9月5日(火) 6・7 限
- (イ) 場 所 本校体育館及び各教室
- (ウ) 対 象 1 学年普通科
- (エ) 目 標 1 分間スピーチを行い、各自のテーマを知ることにより協働して研究できるグループを構成する。
- (オ) 内 容 研究テーマを選んだ理由について、クラス全員の前で1 分間発表する。その際に、テーマがグローバルな課題か、地域等で困っていることか、高校生が提言・改善できるものか等について確認し合う。その後、テーマが関係している生徒でグループづくりを行った。

コ 鹿山夢講座「ようこそ先輩」 実施要項

- (ア) 日 時 平成29年9月12日(火) 6・7 限
- (イ) 場 所 本校理科棟、普通教室及び地域交流施設
- (ウ) 対 象 1 学年
- (エ) 目 標 各界で活躍している本校卒業生のお話を聞くことで、グローバル社会の中で自分がどのように生きていくべきかを考える。
- (オ) 講 師
 - 金子 卓也 氏 (経営学, 国際基督教大学 准教授)
 - 岡田 将吾 氏 (人工知能, 東京工業大学助教)
 - 柳川 浩貴 氏 (オリエンタルランド)
 - 猪尾 祥一 氏 (日本政策金融公庫)
 - 鈴木 淳一 氏 (牧師)
 - 成毛 翔子 氏 (千葉大学大学院 工学研究科)
- (カ) 内 容

実施形態・実施内容はほぼ昨年度と同様である。一人の生徒が二人の講座を聴講できるようにしている。生徒は実社会で活躍する方の生の声を聞くことで、グローバル社会の有り様を理解し、自己の生き方・在り方について考えを深めることができた。

14:15～15:05	1 回目の講義
15:05～15:15	生徒移動
15:15～16:05	2 回目の講義
- (キ) 成果と課題

課題研究を進めていく中で、現代の社会の有り様を理解しておくことが必要であると考え、昨年度に引き続き実施した。活躍している場が異なる方の話を聞き、社会における生き方・在り方について考えを深めることができた。SGHに係る講座として、卒業生の活用は有効であった。

サ「課題研究テーマ、研究の目的(設定理由、仮説等)を決めよう」

- (ア) 日 時 平成29年9月26日(火) 6・7 限
- (イ) 場 所 各教室
- (ウ) 対 象 1 学年普通科
- (エ) 目 標 研究グループごとに課題研究テーマを決定する。

- (オ) 内 容 研究グループごとに、ブレインストーミング、グループマッピング等の手法を用いて、研究テーマを絞り込み、課題研究のテーマを決定する。その際に設定理由等についてもまとめる。

シ「海外研修の報告を聞こう2」

- (ア) 日 時 平成29年10月10日(火) 6限
(イ) 場 所 本校体育館
(ウ) 対 象 1・2学年
(エ) 目 標 オーストラリア及びシンガポールで研修した生徒の成果を見聞することにより、グローバルな課題について知り、課題研究の一助とする。
(オ) 内 容 オーストラリア研修及びシンガポール研修に参加した生徒が、現地の高校生に向けて行った課題研究のプレゼンテーションやディスカッション、フィールドワーク等について報告した。

ス「SSH課題研究ポスター発表から学ぼう」

- (ア) 日 時 平成29年10月10日(火) 7限
(イ) 場 所 本校体育館
(ウ) 対 象 1学年
(エ) 目 標 SSH課題研究のポスター発表(模擬発表)を見聞きすることにより、SGH課題研究の方向性を探るとともに、ポスター発表の手法を学習する。
(オ) 内 容 第2学年理数科生徒がSSH課題研究中間発表のポスターを用いて発表する。その後質疑応答を行い、第1学年生徒は、他の発表者の前に移動する。このことを繰り返す。第1学年生徒は、研究手法や発表方法等、気付いたことをメモに取る。

セ「課題研究テーマ、設定理由等の修正」

- (ア) 日 時 平成29年10月30日(火) 7限・11月7日(火) 6限
(イ) 場 所 各教室
(ウ) 対 象 1学年普通科
(エ) 目 標 研究グループごとに課題研究テーマを絞り込むとともに、研究方法を明確化する。
(オ) 内 容 研究グループごとに、提出されたテーマについて、担当教員からの指導を受け、テーマの再考又は焦点化をするとともに、具体的な研究方法について協議し、研究の方向性を明確化する。

ソ「海外理解推進のための講演会」

- (ア) 日 時 平成29年11月17日(金) 4・5限
(イ) 場 所 教室、地域交流施設、第二体育館等
(ウ) 対 象 1学年
(エ) 目 標 講義を通してグローバルな課題について学び、研究課題の一助とする。
(オ) 講 師
a JICA海外ボランティア経験者(2名)
柏原 庸一 氏(月島テクノメンテナンスサービス)
久保山 三香代 氏(松戸市立根本内中学校)
b DIRECTFORCE授業支援の会(2名)

- 吉田 文一 氏 (元三菱銀行)
- 遠藤 恭一 氏 (元三井物産)
- c 新聞記者(海外特派員)
- 平田 篤央 氏 (朝日新聞社)

(カ) 内容

次のとおり講演会を分科会形式で行った。

柏原 庸一 氏 「コスラエ島の美しい自然とごみ」

久保山 三香代 氏 「ランガの国、セネガル ―アフリカの人たちに日本語を
教えてきました―」

吉田 文一 氏 「海外の人の働く、海外で働く」

遠藤 恭一 氏 「グローバル化する社会で『わかりあえないこととは』」

平田 篤央 氏 「イスラム国とは何者か」

タ「課題研究における調査分析方法 ～RESASを使って～」

- (ア) 日 時 平成29年11月21日(火) 6・7限
- (イ) 場 所 第二体育館
- (ウ) 対 象 1学年
- (エ) 目 標 統計資料の活用方法、統計資料から課題を見つける方法を身に付ける。
- (オ) 講 師 富樫 泰良 氏 (クラブワールドピースジャパン理事長)
- (カ) 内 容 統計資料から地域課題を見つける方法、統計資料の着眼点等、統計資料の具体的な活用方法について説明を受けながら、生徒はスマートフォンを用いてRESASを実際に使用し、必要な統計資料を見付け出す体験を行った。

チ「発表準備をしようけて」

- (ア) 日 時 平成29年11月28日(火) 6・7限, 12月12日(火) 6限
平成30年1月9日(火) 6限, 1月16日(火) 6・7限
- (イ) 場 所 教室
- (ウ) 対 象 1学年普通科
- (エ) 目 標 課題テーマの設定理由・仮説・具体的な研究方法等について検討するとともに、英語でポスターを作成し、英語で説明できるようにする。
- (オ) 内 容 研究グループごとに研究内容の仮説や研究方法を検討する。

ツ「課題研究～互いのプランを深め合うクラス発表会～に向けて リハーサル」

- (ア) 日 時 平成30年1月23日(火) 6・7限
- (イ) 場 所 教室・コンピュータ室・LL教室等・地域交流施設
- (ウ) 対 象 1学年普通科
- (エ) 目 標 課題テーマの設定理由・仮説・具体的な研究方法等について、ポスターを用いて、英語で説明できるようにする。
- (オ) 内 容
 - a 発表は、1班7分以内、準備は1分以内で行う。
 - b 発表場所は、次のとおり。
ABC組：地域交流施設(研修室前)、DE組：コンピュータ室、
FG組：LL教室、練習・作業場所は各教室とした。
 - c 発表時間

示), 先行研究・先行事例, 仮説, 研究方法等を英語でポスター(手書き)に表現し, 英語による発表を行った。メロス言語学院の学生(海外からの留学生)を招き, 質疑応答及び評価していただいた。

【第1学年生徒 発表テーマ】

A 組	1	大豆を使った日本食を世界に広める
	2	偏見のかべを乗り越えよう!
	3	漬物を広めよう
	4	健康的な体をつくろう
	5	外来種を減らす ～特産品と外来種を使った料理の開発～
	6	佐倉におけるゴミ革命
	7	日本の餅を海外に広める
B 組	1	スマートフォンは人々の生活にどのような影響を与えるか
	2	求職者を農業で救う
	3	貧しい子供たちのための無料の施設を広めよう
	4	ナガエツルノゲイトウの研究
	5	日本の高齢化問題への対応
	6	ジャパニーズティー
C 組	1	Dream of 点字ブロック
	2	Universal Station～誰もが使いやすい駅へ～
	3	鹿島川の水質改善
	4	子どもの貧困～「子ども食堂」で貧困の子ども達の支えになろう～
	5	千葉県内の空き家を宿泊施設として活用しよう
	6	守れ! 動物の命～殺処分される動物ゼロを目指して～
D 組	1	Biomimetic × Wind Power
	2	インバウンドにとってわかりやすい地震対策のリーフレットをつくろう
	3	e スポーツを広めよう ～ゲームに対する偏見をなくそう～
	4	日本と海外の違い
	5	日本の文化を世界に伝えよう
	6	VEGETARIANS FIRST
E 組	1	投票率を上げよう
	2	L G B Tの意味を知っていますか?
	3	乾燥食品で無駄をなくそう
	4	L E T ' S M A N N E R S I G N
	5	選挙の投票率を上げよう
	6	子供の偏食を治そう ～レシピづくりを通して～
F 組	1	外国人観光客の電車の乗り換えをスムーズにしよう
	2	殺処分される動物を減らすには
	3	先人たちの知恵から学びエコの時代をつくろう
	4	インバウンドを千葉へ! ～SNSで千葉の魅力を発信しよう～
	5	地名を防災に役立てる
	6	Vegetable Revolution

	7	今から始める選挙の準備～私たちの未来のために！～
G 組	1	視覚障がい者により良い誘導を
	2	身近な自然を守るには ～印旛沼の水質の改善～
	3	食品ロスを減らそう
	4	観光を通して地域経済を発展させよう
	5	若い世代に戦争を語り継ごう
	6	魚離れを食い止めろ！！！！
	7	賢くカラスと向き合おう
	8	ポイ捨てを減らそう

【評価シート】

評価シート																	
<p>〔評価基準〕</p> <p>5：非常に優れている 4：優れている 3：ふつう</p> <p>2：もう少し努力が必要 1：努力が必要</p>																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 70%; padding: 5px;">評価した班： 組 班 テーマ</th> <th style="width: 30%; padding: 5px;"></th> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">1 与えられた時間内におさまっていたか</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">5・4・3・2・1</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">2 大事なポイントを強調して話せていましたか</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">5・4・3・2・1</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">3 聞き手に語りかけるように話せていましたか</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">5・4・3・2・1</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">4 プレゼンテーションの目的をはっきり示せていましたか</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">5・4・3・2・1</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">5 質問にしっかりと答えられていましたか</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">5・4・3・2・1</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;"> 研究内容についてアドバイスがあれば記入してください。 </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;"> 発表を通じて気付いた点があれば記入してください。 </td> </tr> </table>		評価した班： 組 班 テーマ		1 与えられた時間内におさまっていたか	5・4・3・2・1	2 大事なポイントを強調して話せていましたか	5・4・3・2・1	3 聞き手に語りかけるように話せていましたか	5・4・3・2・1	4 プレゼンテーションの目的をはっきり示せていましたか	5・4・3・2・1	5 質問にしっかりと答えられていましたか	5・4・3・2・1	研究内容についてアドバイスがあれば記入してください。		発表を通じて気付いた点があれば記入してください。	
評価した班： 組 班 テーマ																	
1 与えられた時間内におさまっていたか	5・4・3・2・1																
2 大事なポイントを強調して話せていましたか	5・4・3・2・1																
3 聞き手に語りかけるように話せていましたか	5・4・3・2・1																
4 プレゼンテーションの目的をはっきり示せていましたか	5・4・3・2・1																
5 質問にしっかりと答えられていましたか	5・4・3・2・1																
研究内容についてアドバイスがあれば記入してください。																	
発表を通じて気付いた点があれば記入してください。																	
記入者氏名																	

【生徒の発表概要と留学生の評価（抜粋）】

発表班 1 (B組2)	【研究テーマ】 貧しい子どもたちのための無料の施設を広めよう	
	【発表要旨】 日本は他の先進国に比べて子供の相対的貧困率（「所得中央値の半分以下の所得」しか得ていない世帯の占める割合）が高い。貧困の原因のひとつとして、低い生活水準、限られた教育機会、恵まれない職の三つが負の連鎖となっていることが考えられる。私たちはこの連鎖を断ち切り貧困を解決するために、無料塾と呼ばれる施設を中心に研究を進めていくことにした。まず、無料塾の実績、利用者層、問題点を調査する。調査を経て無料塾が効果的だと判断した場合、普及策の提案、普及させるための活動を行う。効果的でないと判断した場合、問題点のさらなる調査や改善策の提案をする。	
評価 (評価者 留学生A)	1 与えられた時間内におさまっていたか	3
	2 大事なポイントを強調して話せていましたか	3
	3 聞き手に語りかけるように話せていましたか	5
	4 プレゼンテーションの目的ははっきり示せていましたか	4
	5 質問にしっかりと答えられていましたか	4
	【研究内容についてアドバイス】 私が聞きたい問題は（質疑応答のときに）全部聞けましたから、問題は他の学生のアドバイスから集めてください。 ・田舎の子供はどう？ ・無料の可能性？	
評価 (評価者 留学生B)	【発表を通じて気付いた点など】 （質疑応答のときに）きびしいコメントをしてほんとに申し訳ないです。このテーマが自分の国で独立した後でずっと発生している問題だからです。感慨でした。	
	1 与えられた時間内におさまっていたか	5
	2 大事なポイントを強調して話せていましたか	5
	3 聞き手に語りかけるように話せていましたか	5
	4 プレゼンテーションの目的ははっきり示せていましたか	5
	5 質問にしっかりと答えられていましたか	5
	【研究内容についてアドバイス】 研究内容としては、すべて大丈夫だと思うが、無料塾ということ、たくさんお金がかかるので、経済的や財務的調査が必要だと思います。実際に無料塾を作る可能性があるのか、とてもいい研究だと思います。	

発表班 2 (F組2)	【研究テーマ】 先人たちの知恵から学びエコの時代をつくろう	
	【発表要旨】 私たちは、江戸時代を中心とした昔の時代のエコ生活と、今問題とされているごみ問題を関連付けて考えることにした。日本の産業廃棄物発生量や焼却量が世界の中でも上位にあることを知り、もともと調査を始めていた先祖の知恵を使って解決していくことはできないだろうかと思ったからだ。「直す、集める、売る」というリサイクルに大切な考えが江戸時代に特に根強くあった。そのような人たちが今まで得た知恵を利用し、今の時代にも合う身近な活動をしていこうと考えている。活動とともにそれらを知ってもらえるように講演などを行っていきたい。	
評価 (評価者 留学生C)	1 与えられた時間内におさまっていたか	5
	2 大事なポイントを強調して話せていましたか	4
	3 聞き手に語りかけるように話せていましたか	4
	4 プレゼンテーションの目的ははっきり示せていましたか	3
	5 質問にしっかりと答えられていましたか	4
	【研究内容についてアドバイス】 Spread awareness to start recycling. Teach the younger generation, so that they can start practicing the habit since young.	
	【発表を通じて気付いた点など】 Eye contact. Hand gestures. Don't to speak everything at one go.	
評価 (評価者 留学生D)	1 与えられた時間内におさまっていたか	4
	2 大事なポイントを強調して話せていましたか	4
	3 聞き手に語りかけるように話せていましたか	3
	4 プレゼンテーションの目的ははっきり示せていましたか	4
	5 質問にしっかりと答えられていましたか	5
	【研究内容についてアドバイス】 先人たちの知恵の例をもっと挙げた方がいい。	
	【発表を通じて気付いた点など】 発表の時は、もっと簡単に理解できる英語で発表する方がいいです。	

(キ) 成果と課題

昨年度と比較して、研究テーマが具体的になっており、研究の方向性が定まっているグループが多い。今年度の「GL探究」において、実践的な指導をするとともに生徒が主体的に活動できるよう、プリント教材を作成したことが挙げられる。また、昨年度末に教員組織を改善し、SGH推進委員会とSGH実務担当、学年職員等の連携が円滑に機能したことで、SGHに係る教育活動の趣旨が生徒に浸透したことが挙げられる。また、上級生の研究テーマを引き継ぎ、より研究を深めていくことを認めたことにより、「動物殺処分」(C組6, F組3)「選挙の投票率」(E組1・5, F組6)「食品ロスを減らす」(E組3, G組3)「戦争を語り継ぐ」(G組5)の4テーマが引き継がれた。

課題研究の発表については、留学生が評価をすることにより効果が見られた。例えば「子供の貧困」について取り上げたグループに対し自国の切実な課題であることを

聞き、生徒は、改めて解決すべきグローバルな課題であると認識し、日本からモデルプランを発信したいと考えるようになった（発表班1）。また、課題の解決方法については、「Teach the younger generation」など、発表に欠けていたことを指摘し、生徒にとって新しい視点が生まれた。発表の在り方については、「You all did a great job!」という評価になるグループもあれば、「Eye contact. Hand gestures. Don't to speak everything at one go.」（発表班2 留学生C）「簡単に理解できる英語で発表する方がいい」（発表班2 留学生D）、「声が小さい。全文を暗記することはよくない。自分の言葉で発表した方がいい。」などの指摘もあった。英語についても厳しい評価があり、引き続き英語力の強化、プレゼンテーション力の向上、生徒に自信をもたせて発表させる指導を行うことが必要である。

ト SSH・SGH合同課題研究発表会

（ア）日 時 平成30年3月19日（月）9：00～14：15

（イ）場 所 体育館・第二体育館・教室等

（ウ）対 象 本校第1・2学年生徒

（エ）目 標 第2学年生徒の発表を見ることで、プレゼンテーションの手法等について考える契機とするとともに、課題についての新たな視点を獲得し、自己の研究について見直す機会とする。

（オ）内 容 第2学年生徒の選抜チームの口頭発表を見て質疑応答を行う。

※詳細は「第2学年実施内容」に記載。

（3）成果と課題

ア 課題研究に係るルーブリック

	評価項目	A	B	C	D
1	テーマの立て方（研究目的・調査項目の設定） 【思考・判断・表現・情報活用能力】 【関心・意欲・探究心】	独創的で、明確なテーマが設定されていて、研究目的や調査項目が分かりやすく整理されて示されている。	明確で、実現可能なテーマが設定されていて、研究目的や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されており、研究目的や調査項目が示されている。	テーマがはっきりしない。研究目的や調査項目が示されていない。
2	先行研究・先行事例等の資料の活用 【思考・判断・表現・情報活用能力】 【関心・意欲・探究心】	信頼できる複数の情報源から情報を集め、先行研究・先行事例等の資料をテーマに関連付け効果的に活用している。	信頼できる複数の情報源から情報を集め、先行研究・先行事例等の資料をテーマに関連付けている。	複数の情報源から情報を集め、先行研究・先行事例等の資料を示している。	これまでの先行研究・先行事例について示されていない。
3	研究方法（調査方法）と分析の視点 【思考・判断・表現・情報活用能力】 【関心・意欲・探究心】	複数の研究方法や分析の視点から、テーマ・研究目的にふさわしいいくつかの研究手法（調査方法）を用い、明確な分析の視点を示している。	複数の研究方法や分析の視点から、テーマ・研究目的にふさわしい研究手法（調査方法）を用い、分析の視点を示している。	テーマ・研究目的に沿った研究方法（調査方法）を用い、分析の視点を示している。	研究方法と分析の視点が示されていない。

4	日本の歴史・伝統・文化の理解 【日本の歴史・伝統・文化の理解の深化】	課題研究に関する日本の歴史・伝統・文化について具体的に説明することができる。	課題研究に関する日本の歴史・伝統・文化について概要を説明することができる。	課題研究に関する日本の歴史・伝統・文化について部分的に説明することができる。	課題研究に関する日本の歴史・伝統・文化について部分的でも説明することができない。
5	役割分担と協力 【コミュニケーション能力】	自分の役割を積極的に果たしながら、他のメンバーの手助けを行い、グループ研究で行う優れた研究をリードしている。	自分の役割を十分果たすとともに、建設的な意見を出すなど、グループ研究に貢献している。	自分の役割はおおむね果たしているが、他のメンバーへの寄与はさほど大きくない。	自分の役割は自覚しているものの、それを十分果たせていない。
6	課題研究発表 【英語力】	英語で研究テーマ、目的、調査方法を的確に説明できる。質問に英語で的確に答えることができる。	英語で研究テーマ、目的、調査方法を説明できる。質問に英語で答えることができる。	英語で研究テーマ、目的を説明できる。	英語で研究テーマ、目的を説明できない。

イ ルーブリックに基づく自己評価

	評価項目	A	B	C	D
1	テーマの立て方(研究目的・調査項目の設定)	8 %	4 5 %	4 4 %	4 %
2	先行研究・先行事例等の資料の活用	1 4 %	4 0 %	4 0 %	6 %
3	研究方法(調査方法)と分析の視点	5 %	5 1 %	4 2 %	2 %
4	日本の歴史・伝統・文化の理解	8 %	3 8 %	4 6 %	7 %
5	役割分担と協力	1 4 %	4 9 %	3 1 %	7 %
6	課題研究発表	7 %	3 8 %	4 8 %	7 %
7	全体計画	3 %	5 0 %	4 4 %	3 %

ウ 成果と課題

課題研究については、「G L 探究」(総合的な学習の時間)において実施し、概ね予定どおり実施できた。昨年度からの主な改善点として、4月からガイダンスを行い、夏季休業中前に課題研究の進め方について指導を行った。さらに、課題の見つけ方、テーマの絞り方については、ビジネス課題を例に挙げ、日本政策金融公庫の方による講演を実施した。そのため、生徒は円滑に研究テーマを見つけることに取り組めた。1年次の到達目標に対してどのような成果があったのか、ルーブリック評価による自己評価で検証することにした。到達目標②「研究したいグローバル社会における課題を見つける」については、自己評価の「1 テーマの立て方(研究目的・調査項目の設定)」の項目が該当するが、53%の生徒がA又はB評価であり、達成していると捉えている。到達目標④「課題研究の進め方を理解する」については、「2 先行研究・先行事例等の資料

の活用」ができていると54%の生徒が捉えており、「3 研究方法（調査方法）と分析の視点」を得たと56%の生徒が捉えている。これらの結果に課題研究の発表等の内容を加味すると、到達目標②④については、本年度の計画で概ね十分な成果が得られたと判断できる。

到達目標①「全員が海外に自信をもって発信できる、日本の歴史、伝統、文化を語れるようにする。通史的なことではなく、自分が語れること」については、「4 日本の歴史・伝統・文化の理解」の評価に反映されるが、A又はB評価は46%であった。評価基準において「研究テーマに関係する」という条件を付したため、研究の進捗状況に左右されていると考えられる。到達目標③「英語のプレゼンができるようにする（プレゼンの手法も含めて）」については、「6 課題研究発表」に該当するが、A又はB評価は45%である。達成認識が高まらないのは、B以上に含まれる「質問に英語で答えることができる」という点について、自信がないからである。次年度以降、教科と一層連携を深めて英語力の強化（特に話す・聞く領域）を進める必要がある。また、このルーブリックの評価が適切か、本校生徒の自己評価を低く捉える傾向に対してどのような手立てが必要か等について検討する必要がある。

6 第2学年 課題研究 ― G L 探究 ―

（1）第2学年計画

- ア 1年次に編成した研究グループで研究を継続する。実施方法は次のとおり。
 - （ア）1年次のホームルームでクラスを構成し探究活動を行う。例えば旧1年A組生徒は、2年A組教室に集まり探究活動を行う。
 - （イ）担当教員は、クラスごとに2名配置し、概ね4グループを担当する。
 - （ウ）クラスにおける担当教員とは別に、研究テーマごとに担当教員を配置し、指導・助言を行う。
 - （エ）グループの班長を決め、班長会議を開き、研究の進捗状況の報告や事務連絡等を行いホームルーム単位で指導のできない部分を補う。
- イ 研究計画を作成する。
- ウ 量的調査、質的調査等を行い分析しつつ仮説を検証する。
- エ 検証結果をレポートにまとめる。
- オ 研究報告書（案）を作成する。
- カ プレゼンテーションソフトを用いて口頭発表を行う。

（2）第2学年実施内容

ア「課題研究の見通しをたてよう」

- （ア）日 時 平成30年4月10日（月）7限
- （イ）場 所 体育館
- （ウ）対 象 2学年普通科
- （エ）目 標 課題研究の進め方と1年間の見通しを立てることで、研究計画を主体的に作成し、円滑な活動ができるようにする。
- （オ）内 容 年間の流れを示し、課題研究の留意点と今後の見通しについて説明した。

イ 講演「高校生に伝えたいこと」

- （ア）日 時 平成30年4月18日（火）6・7限

- (イ) 場 所 体育館
- (ウ) 対 象 2 学年
- (エ) 目 標 学問の世界で活躍している方の在り方・生き方を聞き，グローバル社会における在り方・生き方について考えを深める。
- (オ) 講 師 国立大学法人 千葉大学 徳久 剛史 学長
- (カ) 内 容 自らの経験を基に，高等学校の学習と学問との関係，社会と学問との関係についてお話いただいた。



ウ「海外研修の報告を聞こう」

- (ア) 日 時 平成 2 9 年 4 月 2 5 日 (火) 6 限
- (イ) 場 所 本校体育館
- (ウ) 対 象 1・2 学年普通科
- (エ) 目 標 平成 2 8 年度末にイギリスで研修した生徒の成果及び質的調査の報告等を聞くことにより，課題研究の一助とする。
- (オ) 内 容 イギリス研修に参加した生徒が，イギリスの高校生，ケンブリッジ大学の学生，オックスフォード大学の学生に向けて行った課題研究のプレゼンテーションをに披露するとともに，フィールドワークや研修の内容について報告した。

エ「課題研究を進めよう」

- (ア) 日 時 平成 2 9 年 5 月 1 日 (火) 6 限
- (イ) 場 所 教室
- (ウ) 対 象 2 学年普通科
- (エ) 目 標 研究テーマ等を見直すことで，課題についての考えを深める。
- (オ) 内 容 グループごとに研究テーマの見直し，先行事例・先行研究の確認，仮説の妥当性について検討・協議した。

オ「研究計画を作成しよう」

- (ア) 日 時 平成 2 9 年 5 月 2 6 日 (火) 4 限，6 月 1 3 日 (火) 6 限
- (イ) 場 所 教室（一部地域交流施設研修室）
- (ウ) 対 象 2 学年普通科
- (エ) 目 標 研究計画を作成することで課題研究を主体的に進められるようにする。
- (オ) 内 容 グループごとに研究の方法の確認，具体的な研究計画の作成を行った。5 月 2 6 日については，ビジネス課題を取り上げたグループは，日本金融政策金庫寺田博史氏から講義を受け，ビジネス課題の研究方法について確認した。

カ「フィールドワーク等について」

- (ア) 日 時 平成29年7月20日(木) 2限
(イ) 場 所 体育館
(ウ) 対 象 2学年普通科
(エ) 目 標 調査・分析を主体的に的確に実施できるようにする。
(オ) 内 容 S G H主任が講義形式で次のことを確認した。
①夏季休業中に行うことについて
②フィールドワーク，質的調査，量的調査等の方法，手順等について
③調査等を行うときの留意点について(学校の課題研究で調べていること，研究テーマが〇〇であること，実施するアンケートやインタビュー(生の声)を分析し〇〇の解決・提言等につなげたいこと，お願いしたいこと，助言・指導していただきたいことなどを丁寧に明確に伝えること等。)

キ「フィールドワーク等の資料整理をしよう」

- (ア) 日 時 平成29年9月5日(火) 6・7限
(イ) 場 所 教室(一部多目的室)
(ウ) 対 象 2学年普通科
(エ) 目 標 個々の調査結果を持ち寄ることで課題について多角的な見方ができるとともに，情報を共有し分析することで，課題解決の方法を見付け出す。
(オ) 内 容 夏季休業中に行ったフィールドワーク，質的調査，量的調査等の結果を持ち寄り，グループ内で情報を共有するとともに，仮説に対してどのようなことが言えるのか，分析を行った。その後，報告書作成に向けて話し合った。
ビジネス課題について取り組んでいるグループについては，日本金融政策金庫 寺田博史氏・正能幹雄氏による相談会を開き，調査結果等の分析方法や課題解決方法について指導・助言を受けた。

ク「課題研究報告書を作成しよう」

- (ア) 日 時 平成29年9月26日(火) 6・7限，10月10日(火) 7限，
10月30日(月) 7限
(イ) 場 所 教室・コンピュータ室・L L教室等
(ウ) 対 象 2学年普通科
(エ) 目 標 課題研究の内容をまとめる。
(オ) 内 容 報告の進め方やデータの表現等を検討するとともに，考察について話し合うなど報告書作成に向けてグループごとに協議した。その後，コンピュータを利用して報告書作成作業に取り組んだ。
9月26日については，ビジネス課題について取り組んでいるグループについては，日本金融政策金庫 寺田博史氏・正能幹雄氏による相談会を開き，研究をまとめる上での指導・助言を受けた。

ケ「海外研修の報告を聞こう2」

- (ア) 日 時 平成29年10月10日(火) 6限
(イ) 場 所 本校体育館
(ウ) 対 象 1・2学年
(エ) 目 標 6限…オーストラリア及びシンガポールで研修した生徒の成果を見聞する

ことにより、質的調査の報告等を聞くことにより、課題研究の一助とする。

7 限…課題研究の内容をまとめる。

- (オ) 内 容 6 限…オーストラリア研修及びシンガポール研修に参加した生徒が、現地の高校生に向けて行った課題研究のプレゼンテーションやディスカッション、フィールドワーク等について報告した。

7 限…グループごとに報告書作成作業に取り組んだ。

コ「課題研究発表準備をしよう」

- (ア) 日 時 平成 29 年 11 月 7 日 (火) 6 限, 11 月 28 日 (火) 6・7 限,
11 月 12 日 (火) 7 限, 平成 30 年 1 月 9 日 (火) 6 限

- (イ) 場 所 教室・コンピュータ室・LL 教室等

- (ウ) 対 象 1・2 学年

- (エ) 目 標 課題研究の発表に向けて準備を行う。

- (オ) 内 容 グループごとに報告書作成作業に取り組むとともに、2 月 6 日の発表方法等を検討し、発表概要を作成する。

サ「課題研究～互いのプランを深め合うクラス発表会～に向けて リハーサル」

- (ア) 日 時 平成 30 年 1 月 16 日 (火) 6・7 限

- (イ) 場 所 教室・コンピュータ室・LL 教室等・地域交流施設

- (ウ) 対 象 2 学年普通科

- (エ) 目 標 課題研究についてプレゼンテーションソフト又はポスターを用いて説明できるようにする。言語は英語又は日本語とするが、日本語の場合は、研究概要を英語で発表できるようにする。

- (オ) 内 容

a 事前準備

- ① プレゼンテーションソフトのデータを USB メモリに保存し当日持参する。
- ② 発表には、必ず次の要素を含むこと。
1 テーマ topic, 2 目的 purpose, 3 調査 research (方法 method, 結果 results を含む,) 4 分析 analysis(discussion), 5 結論・提案 conclusion, suggestions
- ③ 教室には、リハーサル開始までにコンピュータ、プロジェクター、スクリーンを設置する。

b 実施方法

- ① 発表は、1 班 10 分以内、準備は 1 分以内で行う。
- ② 発表場所は、教室とする。
- ③ 控室は、多目的室 1・2・3, 書道室, 美術室, LL 教室, コンピュータ室とし、練習及び修正等を行う。
- ④ 発表時間
1 班, 2 班 14 : 15 ~ 14 : 45
3 班, 4 班 14 : 45 ~ 15 : 15
5 班, 6 班, 7 班 15 : 15 ~ 16 : 00
F・G 組のみ 5 班, 6 班 15 : 15 ~ 15 : 40

7 班， 8 班 15：40～16：05

- ⑤ 発表をしていない同じ組合せ班の班長が時間（10分）を計る。10分を過ぎた場合はその時点で打ち切る。9分で手を挙げて、10分で終了を告げる。
- ⑥ 発表を聞いている班員全員と担当教員はコメント用紙（様式は第1学年のコメント用紙と同じ。）に必要事項を記入して発表者に渡す。

シ 課題研究発表会「課題研究～互いのプランを深め合うクラス発表会～」

- (ア) 日 時 平成30年2月6日（火）5～7限
- (イ) 場 所 教室，地域交流施設
- (ウ) 対 象 1・2学年普通科
- (エ) 目 標 グループごとにSGH課題研究の進捗状況について発表し，留学生との質疑応答を通して，研究プランを深め，具体的にどのような提言・発信や行動をとることができるのかを考える。
- (オ) 外部からの助言者及び評価者
メロス言語学院学生（海外からの留学生28名のうち14名が2学年を担当）
参加学生国籍 中国・マレーシア インド・インドネシア・スリランカ
台湾・アメリカ・カザフスタン・ジョージア・ベトナム・韓国
- (カ) 内 容
グループごとに課題研究の成果についてプレゼンテーションソフトやポスターを使用し，取り上げた課題に対して調査等を根拠にした解決方法を示すとともに提言を行う。発表言語は，英語又は日本語で行う。日本語で説明するグループは最初に研究概要を英語で説明する。メロス言語学院の学生（海外からの留学生）を招き，質疑応答及び評価していただいた。

【第2学年生徒 発表テーマ】

1	ハラルラーメンを広めよう
2	日本とイスラム ～共通文化でよりよい関係へ～
3	日本人の英語でのコミュニケーション能力を上げるには
4	日本の選挙をより良くする為には，どうすればいいだろうか。
5	どの国でも見られるアニメを作る。
6	地球温暖化の影響と対策 ー京都議定書・パリ協定を達成するためにー
7	すべての人が楽しめる東京オリンピックにするためには。
8	現代で必要なおもてなし ～Break the language wall～
9	伝統工芸を広めよう ～アイデンティティを失わないために～
10	日本の米を海外に広めるにはどうしたらよいか。
11	観光を利用した地域経済活性化を図ろう！
12	原子力発電との向き合い方
13	日本を，移民・難民の来やすい国にしよう。
14	日本のアソビを外国に売り込む。

15	印旛沼の水質調査と提言
16	Let's Food Rescue!
17	レジ袋使用削減による環境への効果
18	日本製品で不便を解決
19	日本人と水文化
20	佐倉の観光地を広めよう！
21	地球温暖化の改善への道
22	Tokyo 2020 in Chiba
23	どのようにして佐倉の「ミソ」を世界へ売り込むか。
24	日中間での交流を深める ～餃子を通して～
25	CO ₂ 削減による環境改善
26	あなたの食事，それで大丈夫ですか？
27	食料ロスの削減 ～ドギーバッグ復活計画～
28	誰でもわかるピクトグラムの提案
29	国内にいる難民や外国人に対して私たちが支援できることは何か。
30	外国人旅行者に，日本のルールやマナーを理解してもらうにはどうすればよいか。
31	信頼関係を築くための異文化理解
32	食料自給率，過疎化問題いっきに解決～農産物を電車で販売しよう！～
33	手ぬぐい ～訪日外国人が快適に過ごすために私たちは何を手伝えるだろうか～
34	よりよい観光業を作るために ～鎌倉・江ノ島にて～
35	治水について
36	日本の祭り（囃子）について世界に発信する。
37	“TSUKEMONO” ～食品ロスを無くそう～
38	ユニバーサルデザインを広めるには，どうするべきか。
39	水の生成
40	在日外国人中学生を助ける活動を通して
41	地域資源の有効活用 ～菜の花プロジェクト～
42	エネルギー消費削減 ～緑のカーテンをつくろう～
43	妖怪から学ぶ ～日本と海外の国との考え方の違いを見つける及び妖怪の定義～
44	「海外支援に対する日本人の理解」
45	戦争について語り継いでいくためにはどうすればよいか？ ～自分たちも含めた語り部の育成～
46	見た目問題 ―病気やけがで見た目（外見）に症状を持つ人々が暮らしやすい社会にするために―

47	救え！殺処分される動物たち ～日本・ヨーロッパの文化の違いから検証する～
48	マンガ擬態でみる日本と世界の比較
50	受け入れるだけでいいですか？～難民とともに生きる～
51	女性の社会進出を拡大するために ～子育て支援を通じて～

【生徒の発表概要と留学生の評価（抜粋）】

発表班1 (研究テーマ27)	【研究テーマ】 食料ロスの削減 ～ドギーバッグ復活計画～ (Reducing Food Loss through the Promotion of Doggy Bags)	
	【発表要旨】 Recently, a lot of food has been thrown away in Japan. In Europe and America, many people use doggy bags, which are containers to take leftovers home, to reduce food loss. Japanese people, however, are embarrassed at using them. We propose a business plan to make and sell more attractive doggy bags. We made trial products and asked 57 people and 2 restaurants in interviews. Our doggy bags are foldable and washable. We made them look modern so that young people would like to use them. The users scan the QR code printed on the doggy bags and can get incentives. We will sell them at restaurants and hotel parties and so on.	
評価 (評価者 留学生a)	1 与えられた時間内におさまっていたか	4
	2 大事なポイントを強調して話せていましたか	4
	3 聞き手に語りかけるように話せていましたか	5
	4 プレゼンテーションの目的ははっきり示せていましたか	4
	5 質問にしっかりと答えられていましたか	3
	【研究内容についてアドバイス】 ちょっと資料不足	
評価 (評価者 留学生b)	【発表を通じて気付いた点など】 People Psychologically think the food will be un-healthy or un-clean. Japanese people don't like to take leftovers home because they think is un-healthy or un-clean. How to change the stereotype towards leftovers.	
	1 与えられた時間内におさまっていたか	4
	2 大事なポイントを強調して話せていましたか	4
	3 聞き手に語りかけるように話せていましたか	4
	4 プレゼンテーションの目的ははっきり示せていましたか	4
	5 質問にしっかりと答えられていましたか	4
	【研究内容についてアドバイス】 とてもよかったと思う。いいアイディアです。でもドギーバッグのデメリットについて解決方法を示したほうがいいと思う。	

発表班2 (研究テーマ45)	【研究テーマ】 戦争について語り継いでいくためにはどうすればよいか？ ～自分たちも含めた語り部の育成～ (What Should We Do to Hand Down War Experiences?)	
	【発表要旨】 The purpose is teaching young people about the history of war. We seriously thought about「What do we need to stop wars and realize the peaceful world?」As a result, we thought that it was important for us to continue handing down war experiences to people who are younger than us. This is because we young generation don't know the fact of war. So we explained how people experienced war and showed the next generation. First we found how Hiroshima Jogakuinn High School discussed topics like this. For an activity they think about the peace through education. They try to train people who can share peace with the world. We think that there are better ways to discuss misery and war experiences. There are less opportunities to learn about these events and we would like more people to be able to learn about them. We taught an Elementary School class on World War II and then gave the students questionnaires. We asked them, "What had the strongest impact on you?" We had prepared some questions, pictures, movies, personal experiences, some quizzes about meals during the war, and the letters written by who had experienced wars. We believe that our research is one of the step to stop wars. Now we want to continue to convey the war histories and misery of them to next generations.	
評価 (評価者 留学生c)	1 与えられた時間内におさまっていたか	5
	2 大事なポイントを強調して話せていましたか	3
	3 聞き手に語りかけるように話せていましたか	4
	4 プレゼンテーションの目的ははっきり示せていましたか	4
	5 質問にしっかりと答えられていましたか	3
	【研究内容についてアドバイス】 Missing some important explanation.	
評価 (評価者 留学生d)	【発表を通じて気付いた点など】 Pronunciation and grammar is good but can be improved.	
	1 与えられた時間内におさまっていたか	5
	2 大事なポイントを強調して話せていましたか	5
	3 聞き手に語りかけるように話せていましたか	5
	4 プレゼンテーションの目的ははっきり示せていましたか	5
	5 質問にしっかりと答えられていましたか	4
	【研究内容についてアドバイス】 Very good.	
	【発表を通じて気付いた点など】 It's fun. It's loud. Your Slides are very easy to read.	

【留学生からの指摘（抜粋）】

1 プレゼンテーションについて

- ①非常に良いプレゼンテーションでした。ですが、自信なさそうな感じがとてももったいない。ポスターやパワーポイントにはすべての要点を書かないほうが良いと思います。
- ②プレゼンテーションの内容をもう少し想像できる、興味を引くタイトルにするとよいと思います。
- ③原稿を見ないで自分の言葉で発表できるように練習するともっと良い発表になると思います。
- ④少し気になったのは前を見ないで紙ばかり見ているところです。もっと自信を持って前を見ながらゆっくり発表してください。英語の発音、顔の表情、声の大きさ、まとめ方などもう少し重視されるべきだと思いました。そのほかは完璧です。
- ⑤コミュニケーションは双方に人がいて成り立つものです。考えながら実際に口を動かした方がコミュニケーションが円滑に進みます。

2 英語について

- ①私たちのアドバイスを聞き取れないように感じました。英語の発音ももう少し直したほうが良いと思います。
- ②英語に関しては、まだ不足している部分がありますが、精一杯の努力を感じました。
- ③高校生の英語発表を初めて聞きましたが、発音が少し聞き取りにくいところがありました。
- ④英語力はまだ不足している部分もあると思います。

（キ）成果と課題

発表の様子を見ると、教科・科目において発表やプレゼンテーションの機会を設けている授業が多くなり、生徒も円滑に発表を行っていた。プレゼンテーションソフトを用いたスライドやポスターは、リハーサルでの指摘から改善がなされ、見やすいものが多くなった。評価にあたった留学生の感想に「課題をしっかりとリサーチしたとわかりました」「より良い社会、国、世界になるために高校生として自分たちができることを考えている皆さんが素晴らしい」等のコメントがあり、課題研究の内容については概ね伝えることができたと捉えている。

しかし、評価にあたった留学生からは、「自信なさそうな感じ」「原稿を見ないで自分の言葉で発表できるように」「コミュニケーションは双方に人がいて成り立つ」等の指摘があった（【留学生からの指摘（抜粋）】）。グループの研究の充実度等によって発表の質に差が見られた。【発表概要と評価】に取り上げた班は、比較的質の高い研究を行っているが、発表班2に対する留学生cの「大事なポイントを強調していましたか」の「3」の評価は、発表方法に課題があることを示している。プレゼンテーション力の向上に向けた取り組みが必要である。

英語力については、4人の留学生から【留学生からの指摘（抜粋）】①～④の指摘を受けた。【発表概要と評価】の発表班1に対する留学生aの「質問にしっかりと答えられていましたか」の評価は「3」であり、発表班2に対する留学生cの評価も同様である。当該班は、日本語での質疑応答であれば「しっかりと答えられて」いたはずである。このことから、傾向として英語での応答力に課題があると言える。話す力（指摘のあった発音も含めて）はもちろんのこと、「私たちのアドバイスを聞き取れない」（【留学生からの指摘（抜粋）】①）という指摘があるように、聞く力にも課題がある生徒がいることがわかる。話す・聞く力の向上の指導に一層工夫が必要である。

ス SSH・SGH合同課題研究発表会

(ア) 日 時 平成30年3月19日(月) 9:00～14:15

(イ) 場 所 体育館・第二体育館・教室等

(ウ) 対 象 本校第1・2学年生徒

(エ) 内 容 SGHの選抜チームが発表を行う。

a 9:00～9:40 校長挨拶

SGH口頭発表(7分+質疑5分 発表言語 英語)

Reducing Food Loss through the Promotion of Doggy Bags
普通科2年 渡邊俊希, 三上翔太郎, 平岡峻志, 安藤華, 小林友理香, 松尾茉美, 鈴木日捺子, 田中舞衣
近年,日本では大量の食品ロスが社会問題となっている。そこで,海外で普及している「ドギーバッグ」を日本に浸透させ,食品ロスを削減するビジネスプランを作成しようと考えた。プラン作成と試作品作成を行い,飲食店にヒアリング調査,一般の方にアンケート調査を実施した。私たちの考案したドギーバッグは,手洗い可能で何度も折りたためるので手軽に持ち運べる。デザイン性を重視し若い世代に好まれるようにした。さらに,購入者は商品に印刷されたQRコードを読み取って店の情報を確認し,お得なサービスを受けることができる。
What Should We Do to Hand Down War Experiences ?
普通科2年 中園侑奈, 滝田紗恵, 木村仁美, 保谷恵都
戦争が,国家や宗教間の対立を解決する手段として選ばれている。たとえ戦争という解決方法が,もっとも迅速かつ効率的に解決できる方法だとしても,その裏側には兵士をはじめ,女性や子供など多くの命が無意味に失われる。そんな戦争が消えるように高校生としてできることを考えた。それは戦争の悲惨さを伝え続けること。あくまでこれは第一歩であるが,近くの小学校で戦争を伝え続けるプレゼンをした。このプレゼン方法についてのアンケート等をとり分析し,このプレゼンが効果的であることを証明した。

b 9:50～10:30 SSH口頭発表(7分+質疑5分 発表言語 日本語)

c 10:50～11:40 ポスター発表,口頭発表

第二体育館 発表言語:英語

「Japanese Ramen for Muslims!」

「Save The Abandoned Animals from Animals Unfortunate Death」

理科館1階化学講義室 発表言語:英語

「伝統工芸を広めよう ～アイデンティティを失わないために～」

「日本を,移民・難民の来やすい国にしよう」

理科館2階生物講義室 発表言語:英語

「日本の選挙をより良くするためには,どうすればいいだろうか」

「地球温暖化の改善への道」

本館 多目的室1 発表言語:日本語

「サープラスープで地域活性化」

「餃子で築く日中の友好関係」

本館 多目的室2 発表言語:日本語

「よりよい観光を外国人に～鎌倉での実践～」

「SGH 水の精製～濾過～」

地域交流施設 発表言語：英語

「人はミタメが 100%？—すべての人が暮らしやすい社会にするために—」

「Learn From Youkai」

d 11：50～12：30 SGH研究開発に係る発表（地域交流施設）
2年間の研究成果等について参加者に還元する。

e 13：10～14：10 SGHエキシビション（地域交流施設）

1年生による口頭発表

「ナガノツルノゲイトウ駆除大作戦～世代間協力で印旛沼の生態系を守ろう～」

「2年生の研究「戦争を語り継ぐ」を引き継ぐ」

「2020年に向けた私たちのできるおもてなし～インバウンドにもわかる地震
対処法～」

f 14：15～15：15 SGH運営指導協議会（応接室）

（3）成果と課題

ア 課題研究に係るルーブリック

	評価項目	A	B	C	D
1	テーマの立て方（研究目的・調査項目の設定） 【思考・判断・表現・情報活用能力】 【関心・意欲・探究心】	明確で実現可能な独創的テーマが設定されていて、研究目的や調査項目が分かりやすく整理されて示されている。	明確で、実現可能なテーマが設定されていて、研究目的や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されており、研究目的や調査項目が示されている。	テーマがはっきりしない。 研究目的や調査項目が示されていない。
2	先行研究・先行事例等の資料の活用 【思考・判断・表現・情報活用能力】 【異文化理解・未来志向力】	信頼できる複数の情報源から情報を集め、先行研究・先行事例等の資料をテーマに関連付けて効果的に活用している。	信頼できる複数の情報源から情報を集め、先行研究・先行事例等の資料をテーマに関連付けている。	複数の情報源から情報を集め、先行研究・先行事例等の資料を示している。	これまでの先行研究・先行事例について示されていない。
3	研究方法（調査方法） 【思考・判断・表現・情報活用能力】 【異文化理解・未来志向力】	テーマ・研究目的にふさわしい独自の研究方法（調査方法）を用いている。	テーマ・研究目的に沿った研究方法（調査方法）を複数用いている。	テーマ・研究目的に沿った研究方法（調査方法）を用いている。	テーマ・研究目的に沿った研究方法（調査方法）を用いていない。
4	分析 【思考・判断・表現・情報活用能力】 【コミュニケーション能力】	調査した内容をグループでまとめ、先行研究・先行事例などと比較し、他者にわかりやすいように分析した結果をグラフなどで示している。	調査した内容をグループでまとめ、先行研究・先行事例などとの類似点・相違点など分析している。	調査した内容をグループでまとめている。	調査した内容をグループでまとめられていない。

5	結論（提案・改善案） 今後の展望 【異文化・未来志向力】 【課題解決力】 【創造的提案】	他国・地域と比較検討できるグローバルな要素のある社会課題となっている。また、調査から明らかになったことについて整理し、得た知見を効果的に用いて、より具体的な提案ができています。	他国・地域と比較検討できるグローバルな要素のある社会課題となっている。また、調査から明らかになったことについて整理し、得た知見を用いて論理的に説明できている。	調査から明らかになったことについて記述（発表）し、得た情報をある程度用いて説明できている。	調査から得られた情報の記述（発表）もできておらず、これまでに学んだ考え方や研究内容も用いられていない。
6	日本の歴史・伝統文化の理解の深化 【日本の歴史・伝統・文化の理解の深化】	調査を通して日本の歴史・伝統・文化のグローバル社会における価値を捉え、テーマと関連付けてより具体的に説明できる。	調査を通して日本の歴史・伝統・文化のグローバル社会における価値を捉え、論理的に説明できる。	調査を通して日本の歴史・伝統・文化の価値を捉え、説明できる。	調査を通して日本の歴史・伝統・文化の価値について触れていない。
7	役割分担と協力 【コミュニケーション能力】	自分の役割を積極的に果たしながら、他のメンバーの手助けを行い、グループ研究で行う優れた研究をリードしている。	自分の役割を十分果たすとともに、建設的な意見を出すなど、グループ研究に貢献している。	自分の役割はおおむね果たしているが、他のメンバーへの寄与はさほど大きくない。	自分の役割は自覚しているものの、それを十分果たせていない。
8	課題研究発表とレポート 【英語力】	英語で研究テーマ、目的、調査方法、分析、結論（提案・改善案）を的確に説明できる。質問に英語で答えることができる。	英語で研究テーマ、目的、調査方法、分析、結論（提案・改善案）を的確に説明できる。	英語で研究テーマ、要旨を説明できる。	英語で研究テーマ、要旨を説明できない。

イ ルーブリックに基づく自己評価

	評価項目	A	B	C	D
1	テーマの立て方 研究目的・調査項目の設定	1 8 %	4 3 %	3 5 %	4 %
2	先行研究・先行事例等の資料の活用	1 3 %	4 5 %	3 4 %	8 %
3	研究方法（調査方法）と分析の視点	1 4 %	4 7 %	3 5 %	4 %
4	分析	1 2 %	4 7 %	3 5 %	5 %
5	結論（提案・改善案）今後の展望	1 3 %	4 5 %	3 6 %	6 %
6	日本の歴史・伝統・文化の理解	1 2 %	4 4 %	3 5 %	1 0 %

7	役割分担と協力	18%	39%	33%	9%
8	課題研究発表とレポート	16%	42%	36%	6%
9	全体計画	11%	48%	37%	4%

ウ 成果と課題

概ね予定どおり実施することができ、生徒は課題解決に向けた探究活動を主体的に進めることができた。例えば、夏季休業中等に自ら研究課題に関係する NPO 法人や企業等と交渉して調査や検証を行ったり、他校の職員と交渉し学年単位でのアンケートを実施したりするなど、生徒が主体的に活動していた。課題研究発表では、生徒の主体的な活動や調査・分析、思考、課題解決に向けた実践が伝えられた。例えば、グローバル化によるアイデンティティの喪失を避けるために伝統・文化を小学生に伝える授業を行ったグループ、戦争を身近なところから抑止していくことをねらって小学校で授業を行うグループ、グローバル化の波に飲み込まれない政治を行うために投票率を上げる工夫を考えようと実際の選挙で選挙管理委員会と連携して投票所で調査を行うグループ、マレーシアの高校生と交流した際に調査を行いムスリムの食べられるラーメンの開発を行ったグループ等、グローバルな課題の解決に向けた研究成果を発表することができていた。

ループリックによる自己評価を見ると、どの項目についても生徒の概ね60%が評価をA又はBとしている。言い換えれば、60%の生徒が本校SGH研究開発に係る実践により「身に付けさせたい力（ループリック評価票「評価項目」の欄の【 】の内）が身に付いたと認識している。英語でのプレゼンテーションについては、メロス言語学院の留学生の指摘にもあったように、見せ方・伝え方に不十分な生徒や英語力に自身のもてない生徒がいることも事実である。「コミュニケーション英語」等での学習内容や「GL探究」の活動内容を見直すことで改善したい。

また、自己評価において、10%の生徒が「日本の歴史伝統文化の理解の深化」について評価D（調査を通して日本の歴史・伝統・文化の価値について触れていない）としている。グローバルな課題を取り上げた際に、課題の背景や解決に向けて日本の歴史・伝統・文化を十分関連付けることができなかったと認識している生徒がいるということである。テーマによっては関連付けることが難しい場合もあり課題のひとつである。研究について助言をする際に、日本の歴史・伝統・文化の価値に触れることのできるよう丁寧な助言を行うなどの工夫をしたい。